

## 基本目標Ⅱ

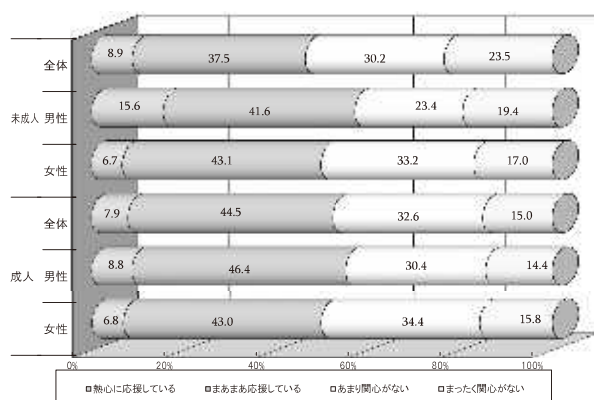
# 県民スポーツを支える環境づくりの推進

## 1 「みる」「ささえる」スポーツの充実

### (1) 「みる」「ささえる」スポーツの推進

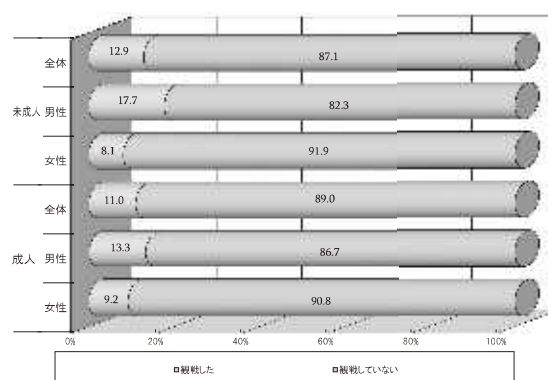
#### ■ 現状と課題

- ・令和2年度のスポーツ実態調査では、児童・生徒の46.4%、成人の52.4%と県民の約半数が県内で活動するプロスポーツチームを応援する気持ちを持っていますが、ホームゲームを会場で観戦したことがある県民は、児童・生徒が12.9%、成人が11%に止まっています。
- ・県内では3つのプロスポーツチームが活動しており、「する」だけでなく、「みる」「ささえる」など様々なスポーツの楽しみ方や関わり方を体感できる環境にあります。より多くの県民が関わりを持てるよう、大分市や別府市以外の地域からの観戦者の拡大を図る必要があります。
- ・プロスポーツチームの、学校、スポーツ少年団※、総合型クラブ※等への訪問による選手との交流は県民のスポーツへの関心を高めており、今後も交流機会の拡充が求められています。



県内プロスポーツチームに対する応援度 (%)

【出典】スポーツ実態調査



県内プロスポーツチームのホームゲーム観戦状況 (%)

【出典】スポーツ実態調査

#### ■ 施策の目標

スポーツイベントや県内のプロスポーツチーム等の地域資源を活用し、県民のスポーツへの関心拡大とスポーツに親しむ機運の醸成を図ることで、「みる」「ささえる」スポーツを推進します。

#### ■ 主な取組

##### ①世界・国内トップレベルのスポーツ大会の誘致と観戦促進

県民がトップアスリートのパフォーマンスを身近で観戦できるよう、国内外のトップレベルのスポーツ大会の誘致に取り組みます。

- ・国際的なスポーツ大会や国内トップレベルのスポーツ大会の誘致と観戦機会の創出

## ②子どもたちへの「みる」「ささえる」スポーツ機会の提供

子どもたちがスポーツを身近に感じ、親しめるよう、プロスポーツチーム等の選手との交流機会等を創出します。

- ・大会主催者と連携した児童・生徒の観戦招待等を通じた「みる」スポーツ機会の提供
- ・学校、スポーツ少年団<sup>※</sup>、総合型クラブ<sup>※</sup>、医療・福祉施設、地域のイベントでのプロスポーツチームとの交流機会の拡充
- ・各種大会における「子どもボランティア」の活用に向けた調査研究



【トリニータ選手による学校訪問】

## ③大会を支える審判員等の専門スタッフの育成

競技の普及・振興を図るため、大会を支える審判員等の専門スタッフの育成を支援します。

- ・各競技団体が実施する審判員等の専門スタッフを対象とした研修会への支援
- ・競技団体との連携による大規模スポーツ大会やプロスポーツ等を活用した県内審判員等の専門スタッフの資質向上

## ④プロスポーツの推進

県内のプロスポーツチームを活用し、より多くの県民がスポーツに親しむための機運を醸成します。

- ・プロスポーツチームとの交流を希望する学校や総合型クラブ<sup>※</sup>等とのマッチング及び学校等への訪問を通じた交流機会の創出
- ・各種イベントを行う県民DAYの開催による観戦機会の拡大
- ・ホームゲームでのPR動画放映や配信によるスポーツを応援する機運の醸成

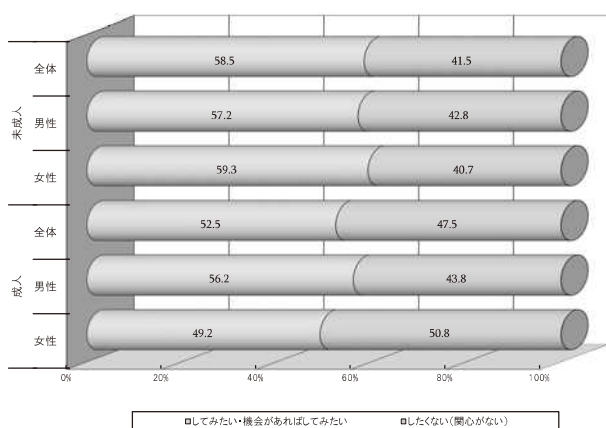


【県民DAYでの大分トリニータ選手によるサイン会】

## (2) スポーツボランティア活動の推進

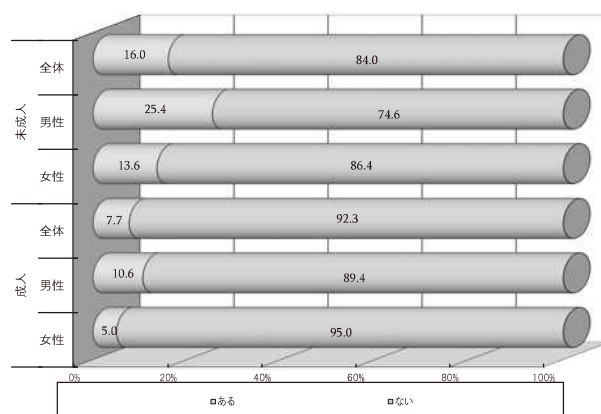
### ■ 現状と課題

- ・スポーツボランティアへの参加は、個人のスポーツへの関心を高めることや、生きがづくりなどに大きな効果が期待されます。
- ・県内を拠点とするプロスポーツチーム等の活動では多くのボランティアが活躍しており、なくてはならない存在になっています。
- ・ラグビーワールドカップ2019大分開催では、延べ4,459人のボランティアが大会運営を支えました。
- ・別府大分毎日マラソン大会や大分国際車いすマラソン大会では、企業や団体の協力によるボランティアの活用が図られていますが、ボランティア活動の継続と広がりを図るためには、県民がよりボランティアに参加しやすい仕組みづくりを検討することが必要です。
- ・令和2年度のスポーツ実態調査における今後のボランティア参加意向では、児童・生徒の58.5%が、成人の52.5%が参加の意向を持っていますが、実際に過去1年間でボランティアに参加したのは児童・生徒が16.0%、成人が7.7%に止っています。活動意欲はあるものの、実際の活動につながっていないことから、ボランティアと団体のマッチング等の諸課題の解決に向けた取組が必要です。



今後のスポーツに関わるボランティア参加意向 (%)

【出典】スポーツ実態調査



スポーツに関わるボランティアへの参加状況 (%)

【出典】スポーツ実態調査



【ラグビーワールドカップ2019大分開催でのボランティア】

## ■ 施策の目標

競技団体や社会福祉協議会等との連携、研修会の開催等を通じ、多くの県民がスポーツボランティア活動に参加できる環境を整備します。

## ■ 主な取組

### ①スポーツボランティアの啓発

広く県民にスポーツボランティアの活動が理解されるよう、興味・関心を高めるための啓発に努めます。

- ・スポーツボランティアの活動内容や相互の交流を含めた体験談等の広報による、ボランティア未経験者への動機づけと意識啓発
- ・スポーツボランティアの功績をたたえる顕彰制度の整備に向けた検討

### ②スポーツボランティアの発掘と育成

一人でも多くの県民がスポーツボランティアに携わるとともに、継続した活動となるよう、発掘及び育成を図ります。

- ・ボランティア未経験者や、学校や企業を対象とした研修会の開催支援
- ・スポーツイベントにおけるボランティア募集に関する積極的な情報提供

### ③スポーツボランティアの活用

様々なスポーツイベントでスポーツボランティア活動ができるよう、体制の整備を支援します。

- ・イベント主催者やクラブの保有するボランティア情報を一元的に管理するための組織構築に向けた取組の支援



【大分国際車いすマラソンでのボランティア】



【別府大分毎日マラソンでのボランティア】



【大分トリニータホームゲームでのボランティア】



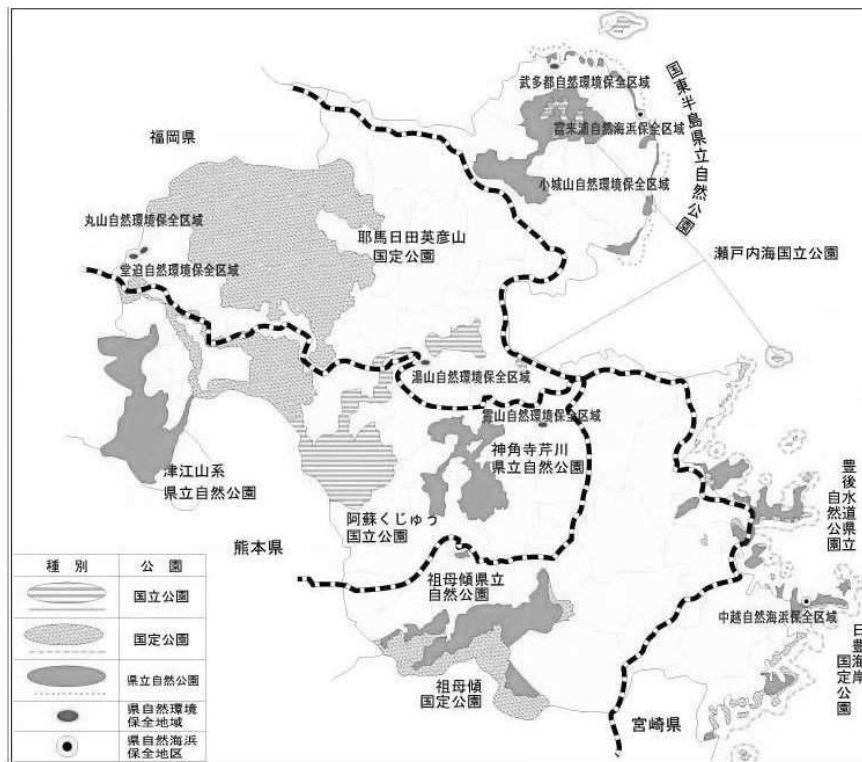
【ラグビーワールドカップ2019のボランティア研修会（ロールプレイングトレーニング）】

## 2 スポーツ活動の場の充実

### (1) 地域の特徴を活かした活動の場の充実

#### ■ 現状と課題

- ・自然等の地域の特徴を活かしたスポーツ活動の場の充実を図ることは、県民の多様化するスポーツニーズへの対応や交流の場の創出につながり、スポーツを通じた地域の活性化に寄与する上で、大きな意義を有しています。
- ・本県は、県土の約7割が森林で占められ、県面積の約3割が自然公園に指定されるなど豊かな自然に恵まれ、国内でも有数のアウトドアスポーツのフィールドを有していますが、付属施設等の整備や広報が不十分で、広く県内外から人が集まり活動・交流する場となっていません。
- ・市町村等と連携した施設・設備の整備、スポーツと観光を組み合わせたプログラムの開発やその広報活動を充実させることで、県内のスポーツ資源が多くの人に利用されるよう取り組むことが必要です。



県土における自然公園の配置状況 【出典】大分県自然公園索引図

#### ■ 施策の目標

市町村や競技団体等との連携により、地域の特色や資源等を活かしたシンボリックなプログラムを創出し、日常的にスポーツに親しめる環境を整備するとともに、積極的な情報提供により、県内外から多くの人が集い活動できる場の充実を図ります。

## ■ 主な取組

### ①豊かな自然を活かしたスポーツ活動の場の整備

豊かな自然環境を活かしたスポーツ活動を充実させるため、市町村と連携し、施設・設備の整備を図ります。

- ・海・山・川等の豊かな自然を活かしたアウトドアスポーツ施設やシャワー、トイレ等の関連設備の整備

### ②身近で取り組めるスポーツ活動の場の整備

県民が日常的にスポーツに取り組むことができるよう、市町村と連携し、身近で取り組めるスポーツ活動の場の整備を図ります。

- ・公園や河川敷等を活用した気軽に取り組めるウォーキングやサイクリングコースの整備

### ③天然・自然環境を活用したスポーツプログラムの開発とその情報提供

アフターコロナを見据えた県民のスポーツニーズに対応するため、市町村と連携し、地域資源を活かしたスポーツプログラムの開発と積極的な情報提供を図ります。

- ・総合型クラブ\*等と連携したスポーツプログラム開発の推進
- ・様々な媒体を活用したプログラムの積極的な情報提供



【国東市総合マリンスポーツ施設（スタンドアップパドルボード）】

## (2) 学校体育施設の充実と有効活用

### ■ 現状と課題

- ・学校体育施設は、地域の最も身近なスポーツ施設であるとともに、コミュニティースペースとして重要な役割を担っています。
- ・学校には、施設、指導者、プログラム等のソフト・ハード両面のスポーツ資源が集積されており、地域のスポーツ資源として一層の活用を図ることが必要です。
- ・令和2年度現在、小中学校における開放率は100%となっていますが、利用は飽和状態に達しており、新規の利用が難しい状況です。一方、県立学校の開放率は28%に止まっており、活動の場の確保に向けた県立学校の更なる開放が必要です。

令和2年度県立学校体育施設開放事業指定校及び施設一覧

令和2年4月1日

No	所在市町村名	開放校	開放施設名		指定開始年度	受託団体名
			グラウンド	体育館		
1	豊後高田市	高田高等学校	○	○	昭和54年	豊後高田市体育協会
2	国東市	国東高等学校双国校		○	昭和54年	NPO法人MAKK笑人クラブ
3	臼杵市	海洋科学高等学校	○		昭和54年	臼杵市スポーツ推進委員協議会
4	竹田市	久住高原農業高等学校	○		平成18年	竹田市体育協会
5	大分市	芸術緑丘高等学校		○	平成18年	ひしのみクラブ
6	日田市	日田三隈高等学校	○		平成19年	日田市スポーツ推進委員協議会
7		日田林工高等学校		○	平成19年	
8	由布市	由布高等学校	○	○	平成19年	みこスマイルインクラブ
9	杵築市	杵築高等学校	○	○	平成20年	杵築市体育協会
10	豊後大野市	三重総合高等学校		○	平成20年	三重町スポーツ振興会
11	大分市	新生支援学校	○	○	平成26年	わさだ夢クラブ
12	大分市	大分支援学校	○	○	平成26年	OZAI元気クラブ
13	大分市	豊学校	○	○	平成26年	NPO法人おおみちふれあいクラブ
14	中津市	中津支援学校	○	○	平成28年	中津市スポーツ協会
15	中津市	中津東高等学校		○	平成31年	中津市スポーツ協会
16	臼杵市	臼杵高等学校	○	○	平成31年	臼杵市スポーツ推進委員協議会

※体育館に多目的体育館を含む。

### ■ 施策の目標

学校が地域のスポーツ資源として有効に活用されるよう、体育施設の整備・充実を図るとともに、県立学校体育施設の開放を促進することで、地域住民が日常的にスポーツに取り組み、交流する場となるよう学校体育施設の充実と有効活用を図ります。

### ■ 主な取組

#### ①学校体育施設・設備の整備・充実

学校が地域のスポーツ資源として有効に活用されるよう、体育施設の整備と充実を図ります。

- ・国の交付金や補助金等を有効活用した学校体育施設の整備と充実の推進
- ・施設の改修や建て替えに合わせたユニバーサルデザイン<sup>\*</sup>化の推進

#### ②学校体育施設開放事業の促進

県民が日常的にスポーツに取り組むことができるよう、身近なスポーツ活動の場である県立学校体育施設の開放を促進します。

- ・開放校における利用者割り当て等の運用方法の見直しや積極的な情報提供
- ・週休日や長期休業を活用した開放校・開放施設の拡大

### (3) スポーツ施設の整備・充実と支援体制の整備

#### ■ 現状と課題

- ・スポーツ施設の整備・充実や県民のスポーツ活動を支える支援体制の整備は、本県のスポーツを推進する上で極めて重要です。
- ・本県では、武道拠点の建設を求める県民ニーズの高まりや、旧県立総合体育館の中核施設としての機能低下を踏まえ、県立武道スポーツセンターを建設するなどスポーツ環境の充実を図ってきました。スポーツの一層の推進に向けては、必要な機能の点検評価等に基づき、市町村との役割分担も踏まえ、施設の計画的な整備・充実に引きつづき取り組むことが重要です。
- ・年齢や性別、障がいの有無に関わらず、すべての人がスポーツに親しむことができるよう、ユニバーサルデザイン※に配慮した施設・設備の整備や、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に基づく運営面での合理的配慮の提供が求められています。
- ・県民がスポーツの楽しさを実感し、日常的にスポーツに親しむためには、トレーニング方法の医学的な研究調査や、スポーツ指導者の養成を行う研修センターの設置など、支援体制の整備が重要です。



【昭和電工武道スポーツセンター】

#### ■ 施策の目標

県民が日常的にスポーツに親しむことができるよう、県立スポーツ施設の計画的な整備・充実や支援体制の整備に向けた取り組みを推進します。

#### ■ 主な取組

##### ① 県立スポーツ施設の維持・整備

より多くの県民が「する」「みる」「ささえる」立場でスポーツに親しむことができるよう、必要な機能の点検評価等に基づいた施設の維持・整備を図ります。

- ・県内全域におけるスポーツ施設の有効活用に向けたスポーツ施設の必要数や市町村との役割分担に関する検討



- ・ 武道環境の充実に向けた弓道場・相撲場のあり方に関する調査・研究
- ・ 屋内水泳場の必要性に関する調査・研究
- ・ 施設機能や利用状況を踏まえた誰もが快適に利用できるユニバーサルデザイン<sup>※</sup>に配慮した施設の計画的な改修

## ②スポーツ環境を充実させるための施設運営

年齢や性別、障がいの有無に関わらず、すべての利用者が快適に施設を利用できるよう、指定管理者と連携して県民のスポーツ環境を充実させるための施設運営に取り組みます。

- ・ 定期点検の実施や安全管理講習会の実施による安心・安全なスポーツ環境の提供
- ・ 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に基づく合理的配慮の提供
- ・ 利用者へのアンケート調査等を活用した用具の整備や予約方法の改善等による利便性向上に向けた取組の推進
- ・ 高齢者や障がい者が参加できるユニバーサルスポーツ<sup>※</sup>教室等の開催

## ③支援体制の整備に向けた検討

県民のスポーツ活動をさらに充実・発展させるため、必要な機能や支援のあり方に関する調査・研究を行うなど、支援体制の整備に向けた検討に取り組みます。

- ・ 幼児から高齢者まですべての人がそれぞれのライフステージや目的に応じて活用できるスポーツ医学<sup>※</sup>に関する支援体制の検討
- ・ 効果的な指導やトレーニング方法の提供など指導者の養成や資質向上に関する支援体制の検討
- ・ 地域におけるスポーツ活動や大会結果等の情報を一元的に管理し、県民に分かりやすく提供するスポーツ情報センターの設置に向けた検討

## ■ 目標指標

指標名	基準値		実績値 (R1)	目標値 (R12)
	年度			
県立武道スポーツセンター利用者満足度調査における「大変良い」「良い」の割合	R1	82.2%	82.2%	90.0%



【昭和電工ドーム大分】



【別大興産スタジアム】

### 3 スポーツを支える組織や体制、仕組の充実

#### (1) スポーツ情報の収集と提供

##### ■ 現状と課題

- ・多様化する県民のスポーツニーズに応えるため、様々な情報を効果的に収集し、利用者に分かりやすく提供できるシステムの整備が必要です。
- ・県や市町村、競技団体等が個別にスポーツ情報の提供を行っていますが、その手段や内容は様々で利用者が求める情報を簡単に取得できる方法の工夫や、「みる」「ささえる」スポーツに関する情報の充実が求められています。
- ・令和2年度のスポーツ実態調査において、年代によって求めるスポーツ情報とその入手方法が異なることが明らかになっており、効率的・効果的な情報発信に向け、対象年代を考慮した発信手段の使い分けが求められています。

県民が期待している運動・スポーツに関する情報 成人 (複数回答・%) 【出典】スポーツ実態調査

項目	全体	前回調査 (2013年)	性別		年齢							
			男性	女性	18-29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	
健康・体づくりなどの情報	50.6	47.0	46.4	54.4	28.9	30.8	35.8	55.0	57.8	65.7	65.7	
新しいスポーツ、気軽にできるスポーツなどの情報	28.3	26.0	21.7	33.8	31.1	30.3	33.6	30.6	29.6	24.8	16.9	
各種スポーツ教室の案内	21.9	20.6	15.7	27.2	20.7	25.8	36.2	24.8	21.8	15.7	4.8	
スポーツ行事・イベントの情報	21.6	19.6	24.9	18.9	24.4	26.8	27.2	20.5	23.1	14.7	16.9	
スポーツ施設の案内	21.4	21.6	22.7	20.5	31.9	26.3	35.8	27.1	18.0	9.1	6.0	
参加できるスポーツ競技会の情報	16.5	15.0	20.9	12.5	19.3	17.7	13.4	19.8	17.3	14.7	13.3	
スポーツに関する医学的・科学的な情報	13.3	14.0	14.0	12.4	14.8	11.6	10.8	17.8	13.9	13.6	9.0	
クラブ同好会などの活動案内	11.2	13.2	12.7	10.0	15.6	12.1	9.9	11.2	14.3	8.4	7.8	
その他	5.3	4.1	6.6	4.2	5.9	4.5	3.0	5.0	4.1	5.9	10.2	
各種スポーツ指導者の紹介	3.9	5.1	3.3	4.2	4.4	4.5	6.0	5.0	2.7	3.5	1.2	

※複数回答であるため、全体結果をもとに降順並び替え処理を実施している。

運動・スポーツ情報の入手方法 成人 (1位・2位) 【出典】スポーツ実態調査

	1位項目		2位項目	
	割合	項目	割合	項目
全体		知人や友人から		市町村の広報
%	37.3		35.9	
前回調査 (2013年)		市町村の広報		知人や友人から
%	37.5		36.1	
性別		知人や友人から		新聞・雑誌
男性		知人や友人から		新聞・雑誌
%	35.8		31.2	
女性		市町村の広報		知人や友人から
%	42.7		38.6	
年齢		SNS(Twitter, Facebook等)		知人や友人から
18-29歳		SNS(Twitter, Facebook等)		知人や友人から
%	46.4		43.5	
30歳代		インターネット		知人や友人から
%	47.5		34.2	
40歳代		インターネット		知人や友人から
%	46.2		40.3	
50歳代		知人や友人から		市町村の広報
%	36.2		35.5	
60歳代		市町村の広報		知人や友人から
%	44.0		38.7	
70歳代		市町村の広報		知人や友人から
%	45.0		40.5	
80歳代		新聞・雑誌		市町村の広報
%	38.7		36.8	

## ■ 施策の目標

県民が興味・関心を持ち、スポーツ活動に主体的に取り組めるよう、関係機関・団体と連携した効果的なスポーツ情報の収集と提供に努めます。

## ■ 主な取組

### ①スポーツ情報システム※の構築

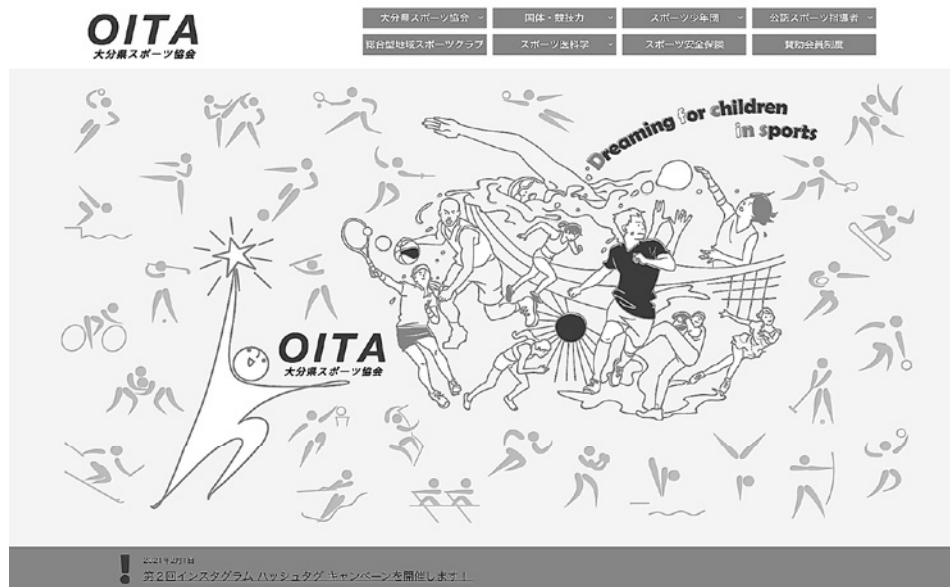
県民がそれぞれのライフステージに応じてスポーツに親しめるよう、県民のニーズに対応した情報が容易に取得できるシステムを構築します。

- ・スポーツ実態調査等を通じた県民が求めるスポーツ情報に関する分析
- ・スポーツ関係団体やイベント主催者と連携した「みる」「ささえる」スポーツに関する情報の充実
- ・公共施設等へのスポーツ情報検索端末の設置
- ・スポーツ情報の一元化や発信方法等のシステム構築に向けた調査・研究
- ・プロスポーツチームや選手を活用した情報発信

### ②報道機関と連携した情報提供の充実

本県選手の活躍をはじめとしたスポーツ情報を広く県民に発信できるよう、報道機関と連携した情報提供の充実に努めます。

- ・スポーツ関係団体と報道機関の定期的な情報交換機会の設定等を通じた連携・協働体制の構築
- ・スマートフォンアプリ等の新たな情報発信環境の整備
- ・世代に応じた多様な媒体を活用した情報発信の推進



## NEWS

【公益財団法人大分県スポーツ協会ホームページ】

## (2) 行政組織の連携とスポーツ関係団体の充実

### ■ 現状と課題

- ・ 青少年の健全育成や健康寿命<sup>※</sup>の延伸、地域の活性化等、スポーツが担う役割は多様化しており、それらを総合的に推進するための行政組織の整備が求められています。
- ・ 社会状況の変化や県民のスポーツニーズに対応した取組を推進し、スポーツの価値を一層高めるために、スポーツの普及振興を担うスポーツ関係団体の役割はこれまで以上に重要となっています。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の発生等により、これまでどおりのスポーツ活動が困難な状況が発生しており、県民が継続的にスポーツ活動に取り組むことができる環境づくりが求められています。
- ・ スポーツや健康づくりに関する施策の効果的・効率的な推進に向け専門的な知見の活用が求められており、研究機関や医療機関、大学等との横断的な連携・協力体制の構築が必要です。

### ■ 施策の目標

県民の豊かなスポーツライフを支援するため、総合的なスポーツの推進に必要な体制を整備するとともに、健康・体力づくりや競技力向上などに取り組むスポーツ関係団体の充実を図ります。

### ■ 主な取組

#### ① スポーツ推進体制の整備

本県におけるスポーツ推進施策を総合的に展開できるよう、行政組織における推進体制を整備します。

- ・ 定期的な情報交換や会議の開催等を通じた行政組織における総合的な推進体制の整備
- ・ 多様化するスポーツが担う役割を合理的かつ効果的に推進する行政組織のあり方に関する調査研究



【大分県スポーツ推進審議会】

#### ② スポーツ関係団体におけるガバナンス向上の取組の推進

県民がスポーツの楽しさを実感し、主体的に取り組めるよう、スポーツの普及振興を担うスポーツ関係団体におけるガバナンス向上の取組を推進します。

- ・ 各団体における「スポーツ団体ガバナンスコード」<sup>※</sup>に基づくセルフチェックの実施及び改善
- ・ 基本方針や事業計画、役員、予算等の公表によるスポーツ関係団体の透明性の確保
- ・ 暴力根絶等に向けた役員や指導者、競技者等を対象としたコンプライアンスに関する研修会の充実
- ・ 公正かつ適正な経理処理を行うために必要な体制整備への支援

項目	対応状況
事項1 当団体に基づき適切な経理処理及び経理監査を行うべきである。 (1) 法人格を持つ団体は、経理に関する法令を遵守しているか。 (2) 団体の経理状況、年報公表し、透明性を確保しているか。	
(2) 法人格を有しない団体は、団体としての規律を確立し、団体の財務を遵守しているか。 (3) 団体の経理状況、年報公表し、透明性を確保しているか。	
(3) 本団体等に対して適切に会計処理を遵守しているか。 (4) 本団体の経理状況、年報公表し、透明性を確保しているか。	
(4) 適切な経理処理及び事業運営を確保するための団体の体制を整備しているか。 (5) 団体の経理状況、年報公表し、透明性を確保しているか。	

【セルフチェックシート】

#### ③ スポーツ関係団体の整備・充実

年齢や性別、障がいの有無に関係なくすべての県民がスポーツに親しめるよう、各分野を統括するスポーツ関係団体の整備・充実を支援します。

- ・ 競技や指導する対象を選ばず、すべての指導者が活用できるコーチングプログラムの開発
- ・ 大分県スポーツ協会等と連携したスポーツ医科学<sup>※</sup>の知見活用に関する講習機会の充実
- ・ 各スポーツ関係団体の連携・協働を促進するための定期的な意見交換機会の創出
- ・ 地域におけるスポーツ活動の推進に向けたコーディネーターとしてのスポーツ推進委員<sup>※</sup>の資質向上



【公益財団法人大分県スポーツ協会評議員会】



【大分県スポーツ推進委員研究大会】

#### ④関係機関・団体と連携した安心・安全なスポーツ体制の確保

県民が安心・安全にスポーツ活動を継続できるよう、関係機関・団体と連携して持続可能なスポーツ環境を確保します。

- ・ 福祉保健部局や医療機関と連携した感染症予防対策の策定と関係団体への徹底
- ・ スポーツ関係団体と連携した新しい生活様式を踏まえたスポーツ大会の開催
- ・ オンライン等を活用した新しいスポーツ環境づくりの推進
- ・ 大分県体育施設協会と連携した関係法令や安全管理に関する講習会の開催等による事故防止の徹底



【大分県高等学校総合体育大会（空手道競技）】

#### ⑤研究機関・医療機関・大学との連携

県民の多様なニーズに応じたスポーツ活動を実現するため、研究機関や医療機関、大学との連携を推進します。

- ・ 各研究機関や医療機関、大学が持つ知識やノウハウ、過去の連携実績（成果）に関する整理及び関係機関・団体との共有
- ・ 大学等と連携したスポーツ行政に係る課題解決のためのプラットフォーム構築に向けた調査・研究



【大分県スポーツ推進委員初任者研修会】

## (3) 企業におけるスポーツ活動の推進

### ■ 現状と課題

- ・各種大会で活躍している社会人の競技者やチームは、それぞれの競技を牽引する中心的な役割を担っており、本県の競技力向上を支える貴重な財産となっています。
- ・企業の有するスポーツチームは、スポーツ少年団<sup>※</sup>や総合型クラブ<sup>※</sup>と交流する等の地域貢献活動を行っており、子どもに夢を与えるとともに、各チームにとっても地域との絆を深める貴重な機会となっています。
- ・令和2年度のスポーツ実態調査における働く世代（20代～50代）の定期的なスポーツ実施率は40.1%と低く、1日の3分の1以上の時間を占める通勤や職場での活動の中に運動を取り込むことが重要です。

### ■ 施策の目標

県民のスポーツ活動の充実に向け、地域や職場におけるスポーツ活動や地域貢献活動など、企業におけるスポーツ活動を推進します。

### ■ 主な取組

#### ①スポーツの推進に向けた企業との連携・協力

県民が負担を感じず生活の中でスポーツに取り組めるよう、職場や地域におけるスポーツの推進に向けた企業との連携・協力を推進します。

- ・健康経営事業所<sup>※</sup>の普及と拡大に向けた啓発活動の推進
- ・徒歩・自転車通勤の推進やランチタイムフィットネス<sup>※</sup>の開催を通じた日常生活に運動を取り込む仕組の構築
- ・企業と地域が連携・協働したスポーツイベントの開催
- ・競技力向上に向けた企業におけるスポーツチームの育成と活動の推進
- ・指導者の派遣等を通じた企業関係者の地域スポーツへの参画

#### ②地域貢献活動の推進

スポーツの持つ価値やスポーツが社会に与える好影響の情報発信を通じ、スポーツを通じた企業の地域貢献活動の推進を図ります。

- ・先進事例の積極的な提供を通じた企業が行う社会貢献活動の考え方の県内企業への普及啓発
- ・国際大会等で活躍できる優秀な競技者の雇用促進
- ・企業の有する指導者や優秀な競技者による学校や総合型クラブ<sup>※</sup>でのスポーツ教室の開催
- ・公共スポーツ施設におけるネーミングライツ<sup>※</sup>の推進
- ・地域貢献活動を行う企業の積極的な情報発信と顕彰制度の検討
- ・企業における障がいのあるアスリートの雇用等を通じたパラスポーツの推進

## (4) スポーツに関する顕彰制度の充実

### ■ 現状と課題

- ・スポーツで活躍するアスリートや指導者等の存在は、県民に希望や感動を与えるとともに、郷土を誇りに思う心の醸成につながることから、功績をたたえる顕彰制度を活用し、県民に広く発信することが必要です。

### ■ 施策の目標

国際大会等で活躍したアスリートやその指導者、またアスリートを輩出した企業等の功績をたたえることにより、県民の多様なスポーツ活動を支える個人や団体等、県民のスポーツ活動の励みとなるよう顕彰制度の充実に努めます。

### ■ 主な取組

#### ① 顕彰制度の充実

国際大会等で特に優秀な成績を収めたアスリートやその指導者、またアスリートを輩出した企業等の功績をたたえると同時に、県民の多様なスポーツ活動の励みとなるよう、顕彰制度の整備・充実に努めます。

- ・市町村におけるスポーツ顕彰制度導入に向けた働きかけ
- ・スポーツボランティアや障がい者スポーツの推進等に貢献する個人・団体の顕彰制度の検討



【大分県民表彰（東九州龍谷高校）】

## 基本目標Ⅲ

# 世界に羽ばたく選手の育成

## (1) 競技力向上のための組織の整備・充実

---

### ■ 現状と課題

- ・本県では、平成20年に開催したチャレンジ！おおいた国体に向けた強化で得たノウハウをさらに進化させ、大分県競技力向上対策本部や大分県スポーツ協会をはじめ、競技団体や学校体育団体、企業等と連携した取組を推進しています。
- ・近年、中央競技団体における不祥事により、組織運営をはじめ競技力向上にも影響を及ぼしていることから、競技団体におけるガバナンスを強化し、組織の充実を図ることが求められています。
- ・平成20年に開催したチャレンジ！おおいた国体に向けて整備した競技用具が、整備後10年以上経過し、故障や破損、規格変更等により、選手の練習環境に支障をきたしていることから、新たな競技用具の整備が求められています。

### ■ 施策の目標

国際大会や全国大会で活躍できるトップレベルの競技者を育成するため、関係団体の組織の整備・充実を図ります。

### ■ 主な取組

#### ①競技団体や学校体育団体等の活性化

関係団体等と連携し、競技力を支える環境整備の推進と、組織体制の整備やガバナンスの強化を図ります。

- ・競技力向上の拠点となる学校や企業、クラブチーム等が行う強化活動への支援の充実
- ・競技団体や学校体育団体及び地域スポーツ団体等の活性化に向けた各種事業やイベント開催、競技用具の整備などへの支援
- ・ガバナンス研修会の開催等を通じた組織体制の充実・強化

#### ②年代や競技の枠を超えた連携体制の整備

組織の整備や充実に向け、長期的視点に基づいた年代や競技の枠を超えた連携体制を整備します。

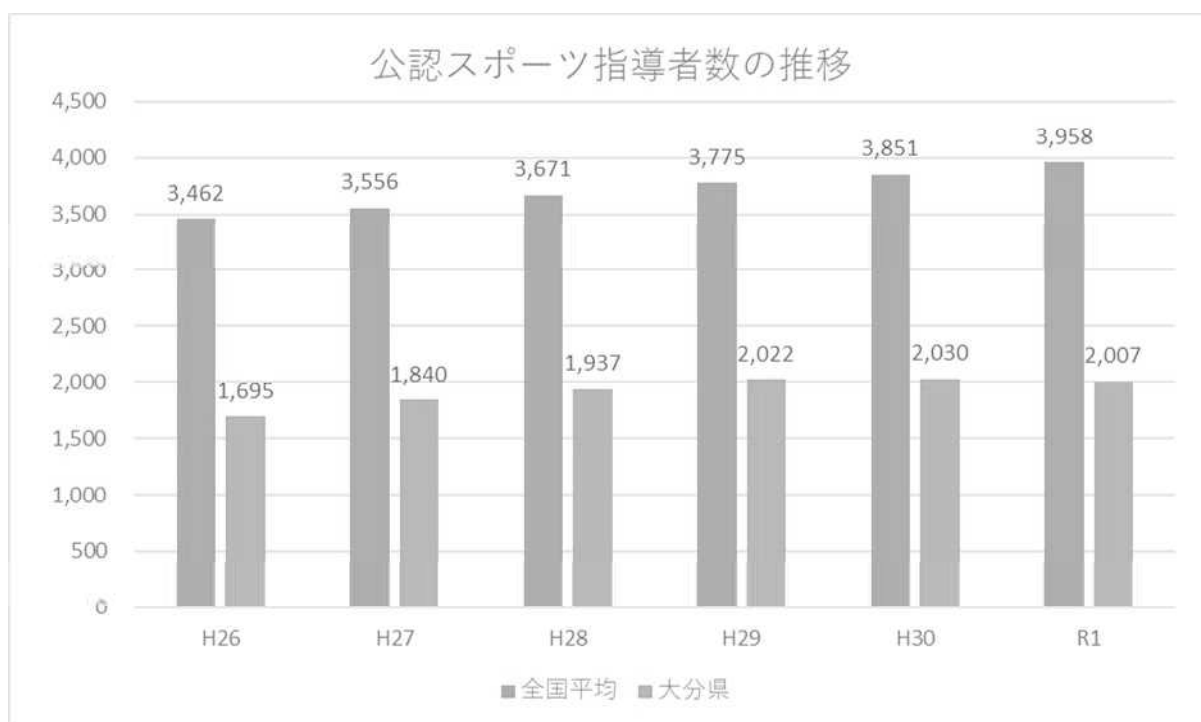
- ・県選抜チーム等の取組を通じた各競技における世代に適した指導法や育成体制の構築
- ・大分県競技力向上スーパーコーチ<sup>\*</sup>等を活用した次世代を担う指導者の異競技間交流の促進



## (2) 競技力向上に向けた指導体制の充実・強化

### ■ 現状と課題

- ・ 競技者のライフステージに応じた多様なニーズに応えることができる指導力の高い指導者の養成が求められています。
- ・ 世界で活躍できる選手の育成には、日常的な活動の場における指導が重要なことから、強化拠点における指導の充実が求められています。
- ・ 優秀な指導者の高齢化が進んでおり、次世代を担う指導者の養成・確保に向け、引退した選手が指導者として活躍できるスポーツ人材の好循環を生む仕組みづくりが求められています。



【出典】公認スポーツ指導者登録状況（日本スポーツ協会）

### ■ 施策の目標

国際大会や全国大会で活躍できるトップレベルの競技者を育成する指導者の適正配置や、次世代を担う指導者の養成・確保を通して、指導体制の充実・強化を図ります。

### ■ 主な取組

#### ①公認スポーツ指導者※資格の取得を通じた指導者の育成と資質の向上

世界で活躍できる選手の育成に向け、大分県スポーツ協会をはじめ関係団体と連携し、各種研修会の充実や公認スポーツ指導者※の資格取得を通じて、指導者の育成と資質の向上を図ります。

- ・ 発育・発達段階に応じた適切な指導の実践に向けた公認スポーツ指導者※資格の取得促進
- ・ 公認スポーツ指導者※資格更新研修会をはじめ、各競技団体やスポーツ少年団※の指導者養成講習会の開催を通じた専門知識の向上



【指導者養成事業(大分県スポーツコーチサミット)】

## ②強化拠点となる学校への適切な指導者の配置

運動部活動は競技者育成の基盤となるため、優秀な指導者がその能力を最大限に発揮できるように、各競技の強化拠点となる学校への適正配置に努めます。

- ・各競技の拠点となる高校への高い指導力を有する指導者の継続的な配置
- ・中学校運動部活動における学校の特性に応じた競技への専門的な指導ができる地域人材の活用



【強化拠点校（大分工業高校ウエイトリフティング部）の練習】

## ③競技者から指導者への好循環サイクルの構築

優秀選手が国際大会や全国大会で活躍した後、指導者として後進の指導にあたるなど、スポーツ人材の好循環サイクルを構築します。

- ・現役を引退した選手が、指導者として活躍できる環境の整備
- ・競技力向上に寄与できる優秀な人材が指導者として活躍できる県内企業とのマッチング

## ■ 目標指標

指標名	基準値		実績値 (R2)	目標値 (R12)
	年度			
人口1万人当たりの公認指導者資格登録数	R2	18.8人	18.8人	23.6人



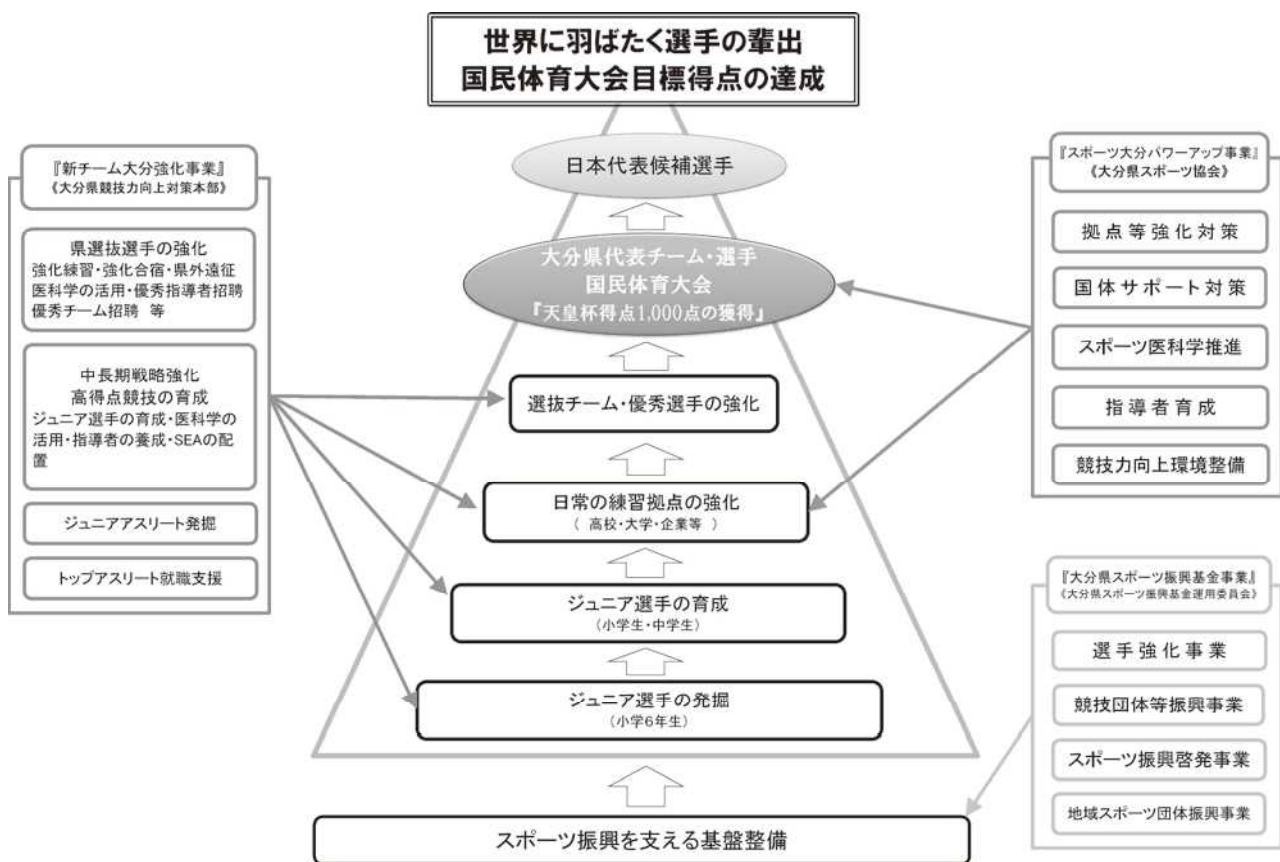
【大分県スポーツ指導者研修会】

### (3) 競技力向上に向けた発掘・育成・強化の推進

#### ■ 現状と課題

- ・ラグビーワールドカップ2019や各種国際大会における本県出身選手の活躍により、世界で活躍できる選手の輩出を期待する声が高まっています。
- ・効果的な選手の育成・強化を図るため、優れた資質を有するジュニア選手の発掘に取り組むとともに、競技団体における一貫指導体制<sup>※</sup>の確立が求められています。
- ・本県では、関係競技団体と連携し、平成27年度から優れた資質を有するジュニア選手の発掘に取り組んでおり、国際大会出場をはじめ、全国レベルの大会で活躍する選手が育成されています。

本県の競技力強化体制



#### ■ 施策の目標

国際大会や全国大会で活躍できるトップレベルの選手を輩出するため、長期的視点に基づいた一貫指導体制<sup>※</sup>を構築し、効果的な選手の発掘・育成・強化を推進します。

#### ■ 主な取組

##### ①ジュニア世代を対象としたスポーツ体験機会の拡大

優れた資質を有するジュニア選手を発掘するため、体験型イベントの開催等によりスポーツ体験機会の拡大を図ります。

- ・優れた資質を有するジュニア選手の発掘に向けた競技体験プログラムの充実
- ・国内トップレベルの選手・チームの派遣を通じた、競技団体や総合型クラブ<sup>※</sup>等が行うスポーツ教室等への支援
- ・県内プロスポーツチームと連携したホームゲームへの観戦招待等を通じた、ジュニア世代へのトップレベルスポーツの観戦機会の提供



【チーム大分ジュニアアスリート発掘事業  
競技体験プログラム（ボート競技）】

## ②関係団体と連携した一貫指導体制<sup>※</sup>の構築

競技団体や学校体育団体等と連携し、競技特性や選手の発達段階に応じて、長期的視点に基づいた一貫指導体制<sup>※</sup>の構築を図ります。

- ・世界に通じる優秀選手の育成に向けた各世代の選抜選手への重点的・継続的な強化
- ・競技団体における小学校、中学校、高校等の年代毎の強化から、ジュニア期からトップレベルを通じた体系的な一貫指導体制<sup>※</sup>への移行
- ・特定の競技団体における一貫指導体制<sup>※</sup>の好事例の提供を通じた他競技への展開
- ・遠隔でのスポーツ指導や動作分析<sup>※</sup>、スマートデバイス<sup>※</sup>を活用した選手のコンディション情報の把握など、強化活動におけるICT活用の普及促進



【陸上競技における小中一貫指導】

## ③関係団体と連携した強化事業の充実

大分県競技力向上対策本部や大分県スポーツ協会をはじめとする関係団体と連携し、競技団体による選抜選手の強化を支援します。

- ・大分県スポーツ協会と連携した強化拠点への活動支援
- ・中央競技団体と連携した競技者育成プログラム<sup>※</sup>等を活用した効果的な選手育成の推進

## ■ 目標指標

指標名	基準値		実績値 (R1)	目標値 (R12)
	年度			
国際大会出場者数	R1	32人	32人	60人

## (4) 競技力向上に必要な諸条件の整備

### ■ 現状と課題

- ・近年、スポーツ医科学<sup>※</sup>は、様々な研究領域において、新たなエビデンスを伴って進化し続けており、競技力の向上に向けては、最新のスポーツ医科学<sup>※</sup>の活用が不可欠なことから、スポーツ医科学<sup>※</sup>関係団体と連携した支援体制の整備が求められています。
- ・ジュニア選手の育成には日常生活を支える家族の協力が必要となるため、保護者を対象とした研修会等の開催が必要です。
- ・優秀な選手が県内に就職し、安定した競技環境の中でオリンピックなどの国際大会を目指せるよう、採用企業の確保が必要です。
- ・本県を代表するアスリートの活躍等を広く県民に周知できるよう、積極的な情報発信が必要です。

項目	全体	前回調査 (2013年)	性別		年齢							
			男性	女性	18-29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	
充実したスポーツ施設の整備	57.9	49.9	57.3	58.2	77.0	61.5	60.2	64.7	55.7	43.3	53.0	
優秀な指導者の育成	49.5	48.9	52.0	47.1	39.6	43.5	45.9	47.5	49.2	55.0	62.7	
選手への財政的な支援活動	45.0	37.7	44.9	45.1	38.8	52.0	45.5	54.0	45.9	40.1	34.6	
ジュニア期(子ども期)からの一貫指導体制	43.6	44.7	45.0	42.1	32.4	47.0	43.9	43.5	44.9	47.2	40.5	
スポーツの医学的研究の充実	19.8	18.2	20.5	19.0	23.0	18.0	25.6	20.9	19.7	15.3	17.8	
トップアスリートを育成するプログラムの開発	19.2	14.4	19.7	18.7	20.9	29.0	30.9	21.6	14.1	10.7	11.4	
その他	2.9	2.3	2.5	3.2	1.4	3.0	3.7	3.2	3.0	2.3	3.2	

大分県の競技力向上に向けて必要な条件整備（複数回答・％）【出典】県民スポーツ実態調査

### ■ 施策の目標

国際大会や全国大会で活躍できるトップレベルの競技者を育成するために、競技力を支える諸条件の整備を推進します。

### ■ 主な取組

#### ① スポーツ医科学<sup>※</sup>の知見等を活用した支援体制の整備

大分県スポーツ協会をはじめ関係団体等との連携・協力し、最新のスポーツ医科学<sup>※</sup>の知見の活用を推進します。

- ・競技団体内におけるスポーツ医科学<sup>※</sup>委員会等の設置を通じた、スポーツドクター<sup>※</sup>・トレーナー<sup>※</sup>・デンティスト<sup>※</sup>・栄養士<sup>※</sup>・ファーマシスト<sup>※</sup>等の、専門知識を有する人材の活用
- ・優秀選手に対するメディカルチェック<sup>※</sup>をはじめ、栄養・フィジカルサポート<sup>※</sup>等の実施
- ・スポーツ医科学<sup>※</sup>関係団体と連携したジュニア期からのスポーツ障害・傷害予防やドーピング<sup>※</sup>防止に関する教育活動の推進
- ・研修会を通じたジュニア選手を支える保護者への心身の発育・発達段階を踏まえたスポーツ医科学<sup>※</sup>の普及・啓発



【国民体育大会ドーピング防止研修会】

## ②アスリートが継続的に活動できる就職支援

日本オリンピック委員会や県内経済団体等と連携し、優秀選手の県内企業への就職を支援します。

- ・国際大会や全国大会を目指すことができるアスリートと企業との就職マッチング機会の提供
- ・採用されたアスリート及び採用企業を対象とした研修会の開催を通じた継続的な雇用に向けた支援
- ・選手の競技環境や応援体制の整備に向けた採用企業への支援



【アスナビ説明会（トップアスリート就職支援事業）】

## ③広報活動の推進

本県を代表するアスリートの活躍や取組を広報することで、競技活動への理解を促進し、アスリートに対する応援の機運醸成を図ります。

- ・マスメディアと連携した本県を代表するアスリートの活躍等の積極的な情報発信
- ・スポーツイベントや競技会の結果をはじめとするスポーツ情報のSNS等を活用したタイムリーな発信

《世界で活躍する本県出身のアスリート》



【渡辺 一平 選手（水泳競技）】

（写真提供：報知新聞社）



【園田 稚 選手（アーチェリー競技）】

（写真提供：公益社団法人全日本アーチェリー連盟）